

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門, 若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : 公共交通計画・運用に関する各種データの収集と活用(1)	
日付 : 6月7日 (土), セッション時間 : 8:45~10:15	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 岡村 敏之(横浜国立大学)	
討 議 内 容	<p>セッション全体 :</p> <p>鉄道やバスなどの公共交通の分野でも、プローブデータ、PTPS、自動改札データ、乗降人員データ、チケット販売記録など様々なタイプの多くのデータが蓄積されるようになってきた。また各種統計データや意識データの活用も必要である。ただし同時に、事業者の予算制約などから、サービス計画や運用計画でそれらのデータが有効に活用されていないのが現実である。</p> <p>論文(335)では「既存の統計データの活用」という視点から、公共交通整備水準の国際間比較が可能なデータベースの構築について、論文(336)では「利用者意識調査データの収集と活用」という視点から、住民の公共交通必要性の意識調査について、発表と議論が行われた。また、論文(336)では、「自動的に取得され蓄積されるデータの活用」という視点から、1年間のバスの乗降人員カウントデータを用いたバス離れの要因の結果より、そのデータの解析の意義と活用について発表と議論が行われた。</p>
	<p>(335) 和泉 範之((財)計量計画研究所)</p> <p>「都市交通整備水準の国際比較の可能性と課題に関する考察」</p> <p>対象としたデータソースである”Mobility in Cities”に関する質問では、データ更新はベストプラクティスについては行われていること、またこのデータそのものは実際の計画や評価に直接反映させることよりもデータ整備することが主目的となっているようであることが紹介された。また、Newman による都市間比較研究に代表されるようなデータベースを、日本の地方都市と国際比較可能な形でデータを整備することに大きな意義がある、との議論がなされた。</p>
	<p>(336) 金築 正文(九州工業大学)</p> <p>「地方都市における住民の公共交通の必要性と協力意識の構成」</p> <p>松江市を対象に地方交通維持のためのバス事業への公的補助について、支払い意思額を調査することにより市民の協力意識の分析を行った論文である。この調査手法について、1) 分析上で、利他的な価値と定義されているものについても、自家用車で家人の送迎をしている場合は利用価値として分類すべきではないか? 2) CVM から求められた価値について、各価値の線形和としてよいのか? 3) 本調査では世帯主に対して調査を行なっているが、バスの利用有無・頻度と支払い意思額との関連性どうか? 等について質疑が交わされた。</p>
	<p>(336) 徳永 幸之(宮城大学)</p> <p>「トラフィックレコーダデータに基づく大学生のバス利用離れの要因分析」</p> <p>大学が沿線に立地するバス路線で、新入生が入学する年度初めに乗客がいったん増加するがその後は利用者が毎月漸減することをバス乗降口に設置したトラフィックレコーダデータで明らかにし、その要因を分析した研究である。質疑では、事業者がデータを有効活用する技術や人的・資金的余裕があるかどうかの以前に、事業者自身がデータを利用する意思そのものがあるのだろうか? との議論が行われた。また、小規模事業者やコミュニティ交通などで簡便にバス停乗降調査をする機器を開発途上であることが紹介され、自治体等による生活交通の計画・運営の際での乗降データ取得の必要性と可能性について議論がなされた。</p>

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会) : 2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門、若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名 : 公共交通計画・運用に関する各種データの収集と活用(2)	
日付 : 6月7日 (土)、セッション時間 : 10:30~12:00	
オーガナイザー・司会者名(所属) : 岡村 敏之(横浜国立大学)	
討 議 内 容	<p>セッション全体 : このセッションでは、公共交通において、「自動的に取得され蓄積できる or されるデータの活用」という視点から、1)交通系 IC データの乗降記録、2)ひずみゲージを用いた路面電車の混雑状況計測、4)交通情報提供 website のアクセスログデータの 3 種類について 4 論文が発表され、データの活用方法について議論が行われた。</p>
	<p>(338) 北野 誠一(神戸大学) 「交通系 IC カードデータを用いた長期間の鉄道利用履歴の分析」 鉄道の IC カードによる乗車履歴を用いた分析の可能性とその一例について紹介がなされた。分析内容については、IC カードによる乗車履歴の分析の例がまだ少なく、どのような分析が可能なのか分析例を積み上げていくことの重要性が議論された。これについては、買物データとのマッチングや他社データとのマージなどの可能性について質問がなされた。さらに、いわば公的なデータとしての公共交通の乗車記録データの重要性について指摘がなされ、集計データだけでも公開されるべきであり、多くのデータが交通事業者内に留まってしまうことへの懸念が指摘された。</p>
	<p>(339) 中村 文彦(横浜国立大学) 「ひずみゲージを用いた路面電車の混雑状況計測および混雑情報提供効果計測データの活用可能性」 軌道に設置したひずみゲージにより路面電車の混雑状況計測と混雑情報提供を行った実験について紹介がなされた。実験方法については、ひずみゲージを恒久的に設置する場合の課題(維持管理等)、車両内の混雑の偏在の計測可能性について質問がなされた。また将来への拡張性として、交通信号制御との連動や、乗降口での乗降人員カウントデータの活用と比べたひずみゲージの優位性について、質問と議論がなされた。また混雑情報提供に関するアンケートについて、混雑以外の要素の評価とうまく区別できるか? という指摘がなされた。</p>
	<p>(340) 助友 久志(神戸大学大学院) 「携帯電話による交通情報提供サイトへのアクセスログ解析」 大阪を対象に、駅時刻表検索のアクセスログの分析を行ったものである。分析結果について、駅別のサイトアクセス数と乗降人員との相関が低いとの結果について、乗降人員ではなく初乗り駅乗降人員であれば相関が高くなる可能性がある、との指摘がなされた。また、アクセス数が少ないサイトのデータであることから、継続的なアクセス記録の蓄積の必要性について著者からコメントがあった。また、どのようなデータを取りたいかを交通行動分析サイドから発信していくことも大事であるとの指摘がなされた。</p>
	<p>(341) 寺部 慎太郎(東京理科大学) 「鉄道経路探索 web サイトに関する利用実態の特徴分析」 Yahoo!の鉄道経路探索 website のアクセスログデータを対象に、探索特性の分析を行ったものである。データの特性として、サイトのデフォルトで設定された時刻(現在時刻)で検索している割合が非常に高いことが報告され、これを交通行動としてどう解釈すべきか? (利用者はいつどのような場面で website を利用しているのだろうか?) について質疑が行われた。また今後の発展性について、鉄道経路選択モデルとのマッチングや、実経路と探索経路との関連性の検討などが挙げられた。</p>